

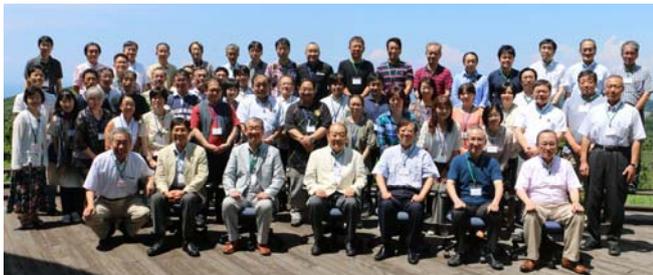


発行責任者: 歯学部長 宮崎 隆, 編集責任者: 広報委員長 中村 雅典  
〒142-8555 東京都品川区旗の台1-5-8 TEL: 03-3784-8000  
ホームページ: <http://www.showa-u.ac.jp>



## 歯学教育者ワークショップ開催される

歯学教育学部門 片岡 竜太



医学・歯学・薬学・保健医療学部・富士吉田教育部教育者のためのワークショップが、8月5日(金)、6日(土)に神奈川県葉山町IPC生産性国際交流センターで開催されました。今年度から医学部、薬学部に加えて保健医療学部、富士吉田教育部と同時開催で、名実共にオール昭和のWSになりました。今回から各学部1テーマになり、歯学部は「臨床実習を充実させるためのカリキュラム検討」に取組みました。歯学部でも分野別認証評価が検討されており、その中で臨床実習の充実が求められています。診療参加型臨床実習(自験)を文科省が推奨するようにさらに充実させるために、また、世界的に72週の臨床実習を基準とする医学部と同様に臨床実習期間を延長する必要があるかどうかについて検討しました。協議の結果、以下のような原案を作成しました。4年生を4学期制にし、従来の各ユニットの定期試験の後に共用試験(CBT, OSCE)を実施し、合格者に対して白衣授与の後で臨床実習Ⅰを実施します。臨床実習Ⅰでは相互実習などによる基本的診療技術の修得を図り、臨床実習Ⅱに備えます。4年生の進級判定は臨床実習Ⅰの評価と進級試験で行います。5年生に行う臨床実習Ⅱは基本的に現行通りですが、各科でミニOSCEを実施し、進級試験では臨床実習を通じて習得すべき内容の臨床実地問題を出題します。6年生では約2ヶ月半で選択必修の臨床実習Ⅲを実施後、iOSCAでコンピテンシーの到達度を評価します。

一方、実現に伴う課題もあげられました。最も大きい課題は臨床実習生が複数学年重なるので、病院内の教育スペースが不足することと指導教育職員の負担過重です。昨年のWSのプロダクトである「チーム医療臨床実習」は、今年度から実施され充実した内容になっていますが、今回のプロダクトも美島教育委員長を中心に来年度から実施できるように、実習担当の責任者を交え、これから検討を行う予定です。

4学部合同は「入試における面接評価について」と「在宅チーム医療カリキュラムのブラッシュアップ」医学部は「コンピテンシーに関連したカリキュラム作成」薬学部は「薬学研究の活性化 一学部生の研究指導について」保健医療学部は「急性期ベットサイドリハ実習体制構築」富士吉田教育部は「東日本大震災による短縮カリキュラムの教育に対する効果の検証」に取り組み、いずれも来年度のカリキュラムに早速取り入れることができる完成度が高いプロダクトが提案されました。

東邦大学医学教育開発室 廣井直樹先生には「東邦大学医学部入学試験でのMultiple Mini Interviewの取り組み」というタイトルで、新しい面接試験であるMMIの利点と実際について従来型の面接試験と対比してわかりやすく話していただきました。本学においても導入が可能かどうか、検討を進めることになりました。

オール昭和の活発な討議の後、学事部も含め100名以上が参加する合同の懇親会が開催されました。昭和大学の重要な課題とその解決のプロダクトに触れ、それがすべて来年から実施されるこのWSはまさに昭和大学の推進力だと思いました。最後に運営を支えていただいた学事部の皆様に感謝します。

## アドバンスコース(WS)の昔話

口腔リハビリテーション医学部門 高橋 浩二

今回参加したアドバンスコースですが、医学部は22回目、歯学部は21回目、薬学部は8回目にあたり、保健医療学部は今回初めてとなります。私自身はおそらく歯学部1回目から参加したと記憶しています。当時はKJ法とは?

から始まり、「～先生」とは呼ばずに「～さん」で呼びましょとか、頭を最大限活用するためにノートイでとか、ブレインストーミングとかアイスブレイクだとか用語も含め全てが新鮮だったことを懐かしく思います。私は歯学部一回生で、当たり前ですが、当時参



加されていた先生方のほとんどが恩師であり、「～さん」といわれるどころか「司会，進行，書記，発表，お前が全部やるんだよ。」と某名誉教授に言われたことは，今ではとても貴重な経験として私の話のネタ帳に深く刻んでおります。「～先生，貴重な経験，本当に御馳走様です。」と振り返る度に感謝しております。またアドバンスコースの夜の会もまさしくアドバンスで，夜を通して嚙下の実習を行い，翌日，その余韻を深く残したまま参加していたことも懐かしく思います。

さて，従来の歯学部ワークショップは理事長先生，学長先生，ファシリテータ役の先生方を除いては歯学部教員のみであったため大学全体を俯瞰する視点は少なかったと思います。今回の4学部合同のWSはその意味でも学部単独では得られない素晴らしいプロダクトが得られたと確信しております。皆様お疲れ様でした。

### 昭和大学教育者のためのワークショップ (アドバンスコース)に参加しました

総合診療歯科部門 長谷川 篤司



8月5日，6日に神奈川県三浦郡葉山町のIPC生産性国際交流センターにおいて第20回歯学教育者のためのワークショップ(以降WS)が開催されました。今回は，医学部，歯学部，薬学部のワーキンググループに加えて保健医療学部，富士吉田教育部のワーキンググループも加わって5部門独自の教育課題が検討されました。さらに部門を越えた混成ワーキンググループでは「入試における面接評価について」，「在宅チーム医療カリキュラムのブラッシュアップ」が検討されました。

歯学部独自の教育検討課題は「臨床実習を充実させるためのカリキュラム検討」でした。文科省からの歯学教育の改善・充実に関するフォローアップに加え，大学改革推進の潮流に呼応した分野別認証制度の導入など，喫緊の課題に対応できる方策として，さらなる診療参加型実習の推進と，在宅医療を含む時代のニーズに応じた実習内容の充実などが提案され，臨床実習期間の延長を含む新カリキュラムが検討されました。複数学年を受け入れる歯科病院や関連実習室，関連施設，教員数など今後さらに詳細な検討が必要となりますが，美島教育委員長を中心に新カリキュラム実施に向けて推進されることとなりました。

### 昭和大学教育者のためのワークショップ (ビギナーコース)に参加しました

顎顔面口腔外科顎部門 秋月 文子



第8回昭和大学教育者のためのワークショップに参加しました。富士吉田教育部，医・歯・薬・保健医療学部・看護専門学校からの教職員が参加されました。私は，他学卒業後，歯科病院で4年間，藤が丘病院形成外科の研究生として13年間を過ごし，2年前に歯科病院に戻ったことから教育経験は浅く，積極的に携わってきませんでした。

“教育とは何か”それまでに考えたこともなかったテーマを考えることから始まり，現状の問題点，それを解決する方法をグループで討論し解決の道を探り，カリキュラムの構築から実践にいたるまでの立案を行いました。グループ内での討論だけでなく，他のグループの発表を聞くことで考え方の幅が広がったようにも思えます。また，グループ全員が同じテーマに取り組み協力しながらひとつのものを作り上げることの大切さを学びました。昭和大学が大切にしている“チーム”とはこういうことなのだと実感し，“教育”をしていただいたことで，“教育の大切さ”を知ることができました。この3日間で得たことは今後の教育現場・臨床現場で生かしていきたいと思えます。参加者をご指導くださった先生方，学務課の皆様感謝申し上げます。



### 行事予定

広報委員長 中村 雅典

日時	行事
8月27日	富士吉田オープンキャンパス
9月17日	歯学部入試説明会
9月29日	大学院秋季修了式
10月1日	富士吉田父兄会

## 特別奨学生採用式が開催されました

歯学部長 宮崎 隆



平成28年度昭和大学 医学部・歯学部・薬学部特別奨学生採用式が、7月14日(木)午後6時から旗の台校舎1号館6階会議室で開催されました。特別奨学金制度は、4年次終了時の成績優秀者に対して、将来本学で研修、大学院進学、職員として教育・研究・診療に従事する者を対象に支給する制度で、平成26年度からスタートしました。本年度の採用者は医学部13名、歯学部6名、薬学部8名でした。

式典では、小出学長から、採用生はさらに努力して本学のトップリーダーになるようにとの、さらに小口理事長からは、大学の発展には人的資源が必要であり、本制度は次世代の幹部候補生である学生に夢を託すものであるとの激励の挨拶がありました。小出学長から採用生全員に採用証を授与し、薬学部の館野さんから謝辞がありました。参加者全員で昭和大学宣言と校歌斉唱を行い閉式しました。採用生の今後ますますのご活躍を祈念します。

## 歯学部オープンキャンパスが開催されました

入学支援課 水庭 隆史



平成28年7月24日(日)に洗足キャンパスにおいて歯学部オープンキャンパスを開催しました。今年度より1日に午前の部・午後の部と2回の開催とし、当日は合計109組224名と、昨年度の62組106名を大きく上回る方が参加いたしました。最初に臨床講堂にて宮崎歯学部長(午後の部は口腔生理学井上教授)のご挨拶で始まり、富士吉田教育部田中教授による「富士吉田での学生生活」と、口腔生理学井上教授(午後の部は歯科薬理学高見教授)による「歯学部

教育の特色・平成29年度歯学部入学試験概要・卒業後の進路」についてのご講演をいただき、その後、6グループに分かれて、顎関節症治療科、歯科放射線科の外来見学や矯正歯科による患者ロボットの紹介、さらに総合診療歯科による“口腔内診察体験実習”を実施しました。教員による個別相談も行われ、参加者からは、「体験実習が本格的でとても楽しかった」「自分の将来を考える良い機会となった」等の感想があり好評のうちに終了することが出来ました。引き続き、8月13日(土)にオープンキャンパスを洗足キャンパスにて、また9月17日(土)に入試説明会を旗の台キャンパスにて実施いたします。

## 学部連携地域医療実習報告会で発表しました

歯学部6年 三神 亮



6月21日に昭和大学旗の台キャンパスにて5月中旬に行われた学部連携地域医療実習の報告会がありました。実習は山梨県富士吉田市と東京都の数か所で行われ、それぞれ異なる実習内容で実習を行いました。私は、山梨県富士吉田市で2週間の実習を行いました。5年次の学部連携実習よりもより臨床に近く、チーム医療に関わる職種の方々の多さ、また患者さんや家族の方が中心となったチーム医療を見学することができました。発表会の中で私が特に感じたのは、都心部と地方では地域医療の在り方が異なるということでした。地方の在宅医療では、移動に時間がかかり、一度に訪問できる患者さんに限りがありました。一方で、都心部では主な移動手段が自転車であり、身近にできる地域医療ではより多くの患者さんを診ることが可能であるということも知ることができました。それぞれの地域によって地域医療の在り方は異なりますが、各地域での工夫があり患者さんを第一に考えた医療があるということは共通していました。私も将来、歯科医師となり地域での医療に参加した際には地域でのチーム医療の形を考えて最善の医療をしていきたいです。

## 第9回ITを活用した教育センターのワークショップを開催しました

口腔衛生学部門 弘中 祥司



平成28年6月23日(木)に、第9回であり最終回のITを活用した教育センターのワークショップが本学旗の台キャンパス1号館6階会議室で開催されました。超高齢社会に対応するIT教育を、本学並びに北海道医療大学、岩手医科大学そして関連歯科医師会で構成される本教育センターは文部科学省の助成を受けて5年間、本学教育推進室の片岡竜太教授を筆頭に歯学部3～5年までの教育カリキュラムをStep1～3に分類して、ITを活用することにより、学生の自己学習をより主導する形でコンテンツが作成されました。最終年度の本年度では、地域関連歯科医師会での学習コンテンツとしての活用方法をワークの中で検討しました。文部科学省はさらに5年間のコンテンツの活用を義務付けているため、補助金の無くなった後の運用方法についても検討を行いました。

文部科学省の補助金を用いたシンポジウムは11月19日(土)札幌が最後となりますが、コンテンツ内容のブラッシュアップやアップデートは毎年コンスタントに行わなければなりません。目の前に迫った、超高齢社会に対応する歯科医学教育は日進月歩なので、関連する先生方の御協力をお願いしたい次第であります。

## ブリティッシュコロンビア大学の学生訪問

国際交流担当 桑田 啓貴

7月26日、本学姉妹校提携校のブリティッシュコロンビア大学(UBC)歯学部の学生が歯科病院を訪問しました。例年4月に新6年生から語学に優れた学生を選抜し、海外に派遣しており、UBCは長年にわたり、本学学生を受け入れてきまし



た。本学の国際交流としては、これまでは昭和大学からの派遣が主でしたが、今回UBCの学生が訪問を希望してくれました。午前中、まず連携歯科で説明を受け、次に手術室での難抜歯や顎変形症の手術を見学してもらいました。午後からは放射線科とスペシャルニーズ、さらに補綴科、スポーツ歯科の外来見学を行いました。技工室のデジタルラボが驚きのようで最新鋭の光学印象を用いたCAD/CAMなどの説明を聞きながら、頻繁に写真撮影を行っていました。また矯正科において3Dプリント技術による装置作成や患者ロボット昭和花子の説明にも真剣に聞き入っていました。ちょうど同日ロンドンロイヤルカレッジからも歯学生が訪問しており、槇病院長との各国の大学事情やキャリアパスなどについて活発な意見交換が行われました。今回の案内は各診療科の先生方に通訳をD6丸山恵莉さんをお願いしました。大変ありがとうございました。

た。本学の国際交流としては、これまでは昭和大学からの派遣が主でしたが、今回UBCの学生が訪問を希望してくれました。午前中、まず連携歯科で説明を受け、次に手術室での難抜歯や顎変形症の手術を見学してもらいました。午後からは放射線科とスペシャルニーズ、さらに補綴科、スポーツ歯科の外来見学を行いました。技工室のデジタルラボが驚きのようで最新鋭の光学印象を用いたCAD/CAMなどの説明を聞きながら、頻繁に写真撮影を行っていました。また矯正科において3Dプリント技術による装置作成や患者ロボット昭和花子の説明にも真剣に聞き入っていました。ちょうど同日ロンドンロイヤルカレッジからも歯学生が訪問しており、槇病院長との各国の大学事情やキャリアパスなどについて活発な意見交換が行われました。今回の案内は各診療科の先生方に通訳をD6丸山恵莉さんをお願いしました。大変ありがとうございました。

## 学長・歯学部長・病院長合同会議が開催されました

歯学部長 宮崎 隆

さる7月29日、本学歯学部を主幹校として、平成28年度歯科大学学長・歯学部長会議及び全国歯科大学・歯学部附属病院長合同会議が京王プラザホテルで開催されました。



これまで歯科大学学長・歯学部長会議と全国歯科大学・歯学部附属病院長会議はそれぞれ別の会議体として開催していましたが、歯学教育の改善、分野別認証評価、国際化の事案など、両会議が緊密に連携を図ることの必要性が高まり、今回合同での初開催となりました。

当日は、国公立大学12校、私立大学17校のあわせて29校の学長、歯学部長、病院長ら78人が出席し、来賓やオブザーバーを含めて大変に規模の大きい会議となりました。

文部科学省と厚生労働省からの基調講演に引き続き、例年よりも多くのテーマについて協議を行いました。限られた時間ではありましたが、活発な議論が交わされ、参加29大学が力を合わせて歯学教育の改善・充実に取り組む方向性が確認されました。

本会議の準備と運営にご尽力いただいた本学学事部ならびに歯科病院の皆様には厚く感謝申し上げます。

## 編集後記 歯科放射線医学部門 松田 幸子

ご寄稿いただいた皆様に御礼申し上げます。